

外見ではわからないこと

伊勢原市立山王中学校

二年

名^な瀧^{たき}

結^{むす}香^か

私の家の周りには、高齢者世帯が多く住んでいて、いつも私に、声を掛けてくれます。あるおじいちゃんは、週に何度か、クリニツククリニツクの車が家にお迎えに来て、通院しているようです。いつも笑顔で、声を掛けてくれて、とても元気そうに見えます。それなのになぜクリニツククリニツクの車がお迎えに来るのだろうと、

不思議に思っていました。きっと、腰や膝が悪く、リハビリにでも通っているのだろうな。と、特に気にとめることもなく、その車を見送ってました。ある日、地域の夏祭りでおじいちゃんに会ったので、
「どうして病院に行っているのですか。」と聞いてみました。すると返ってきた答えに、
「とても、びっくりしてしまいました。おじいちゃんには、」

「人工透析」って知ってるかい。腎臓の働きが悪くてね。普通の人はおしっこでいらなくなた。水分や老廃物を外に出すだろう。それができない病気なんだよ。と教えてくれたのです。私の予想とあまりにも違った答えに、教えてくれたお礼さえ、言葉にするのができませんでした。

私は、透析について詳しく知りたくなり、インターネットで調べてみました。一般的に、週に三回、透析病院に通い、一回、四、

五時間の、透析を受けるそうです。そして、透析は、一生続きます。また、透析を受けると後の体の不調や、日頃の食事制限、水分調節など、気をつけなければならぬことか、たくさんあることを知りました。

私は母に、透析について調べたことを話しました。すると母は、

「他にも、見た目では判断できないことが、たくさんあるよ。例えば、心の病気や身体的なこと。難病と呼ばれるものなど、その人で

なければ、分からない苦勞があるのだね。
と話してくれたのです。見た目は、元気そう
に見える人が、本当は大きな病気を抱えてい
ることになり、改めて驚いてしまいました。

私は、ふと、弟が生まれた時のことを、思
い出しました。弟は、生まれてからすぐ、心
臓に穴が開いている病気が、見つかりました。
私は、や」と生まれてきてくれた弟が、本当
にかわいくて、たまりませんでした。私が少
し大きくなつてから、母が病氣のことを、話

してくれました。年齢とともに、心臓の穴が
小さがることもあること、小さがる時は、
大きな手術になること、日常生活では、体調
管理や心臓への負担を考えて生活しないと
いけないことなどを、教えてくれました。私は、
「元気よく大きな声で泣いて、たくさんミル
りも飲んで、一緒にあそびと笑うのに、何で
病氣なの。苦しうでもないし。保育園の中
で一番元気なんだよ。」
と、母を困らせたことを今でも覚えていま

幸いにも弟は、手術をせず、完治ができて、とても大きく成長してくれました。今は、毎日、さわがしく、元気いっばいに、過ごしているので、すっかり病気のことを忘れてしまうことがあります。

透析を受けている、おじいちゃんも、私の弟も、外見の様子では、分かる病気ではありません。私は、さまざまの病気の知識があれば、声の掛け方や、こまっていたりするサインなどを感じ取るのが、できるのではないかと考

えました。すべての病気を理解することを、難しいですが、病気を知り理解して支えること誰にでもできることだと思えます。このように考えられる人が増えれば、助け合い、支え合いができるすてき世界になると思えます。私はこれをいまして、疑問に思ったことはそのままにせず、しっかりと調べて、その人にあった、手助けができるようになりたいと思えました。